

時代	近世	遺跡	かわしもだいば 河下台場跡、あみやま 網屋浜台場跡（出雲市）
----	----	----	--------------------------------------

鎖国から開国へ ～松江藩の築いた台場～

江戸時代の後半から幕末にかけて、外国船が日本周辺に出没するようになると、幕府は各藩に沿岸防備を命じ、各藩は大砲を据える台場を設置しました。

18世紀末から、ロシア、イギリス、アメリカの艦船が通商を求め、日本の周辺に現れるようになりました。幕府は1825年に「異国船打払令」を出し、各藩では台場の築造が盛んに行われるようになりました。結局1854年に「日米和親条約」が結ばれ日本は開国しましたが、台場の建設は加速し、明治維新まで造り続けられました。

台場とは大砲を据えるための砲台のことです。海岸から船を攻撃する要塞といえます。

出雲市河下町にある河下台場跡は1863年（ペリー来航の10年後）に松江藩が築いた台場の跡です。石垣と土塁で築かれた台場で、東西2つの台場があります。

台場は土を盛って2段の階段状にし、側面を石垣にしています。海側の段が高いのは、敵からの攻撃を防ぐため、1段低い陸側の段に大砲が置かれました。

東側の台場は長さが30m、幅10m、高さが2.4mだったと考えられています。西側の台場は長さが63mあったと考えられています。



図1 河下台場跡（出雲市河下町）

松江藩は1799年から幕末までに、30か所の台場を築いたといわれています。台場は、日本海沿岸の見晴らしの良い場所や、敵の侵入の恐れがある河口付近に築かれました。

松江藩は中国方面から来る船を主に警戒していたので、西側に多く台場が設置されたと思われます。

口田儀台場跡は、現在手引ヶ浦台場公園として復元・整備されています。現存する資料が乏しく、正確な様子は分かりませんが、他の台場や大砲の資料を参考に復元されました。

海岸沿いの見晴らしの良い高台にあり、当時の姿を彷彿とさせています。

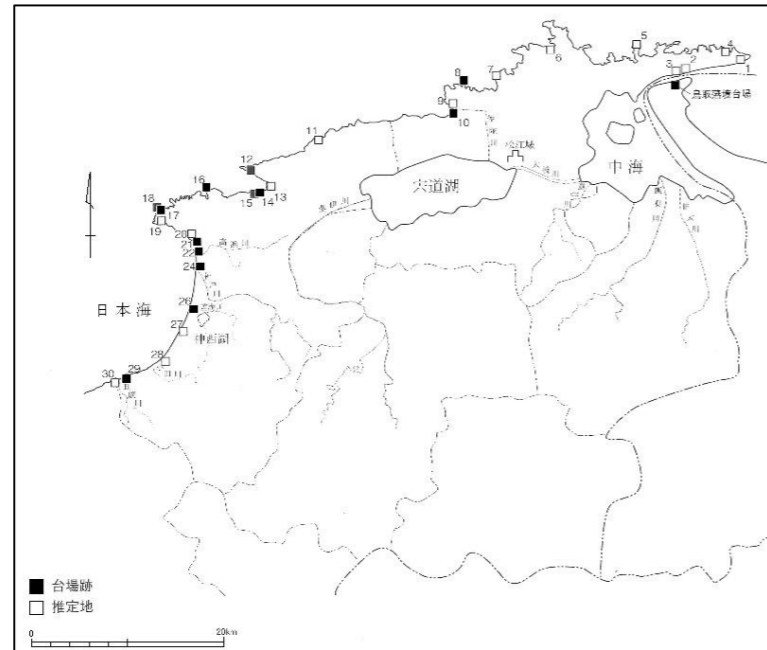


図2 松江藩がつくった台場の場所

出典：解説…(図1)鳥根県提供 (図2)『網屋浜台場跡 河下台場跡』2010 出雲市教育委員会

ワーク…(網屋浜台場跡画像)鳥根県提供

～鎖国から開国へ～

年組名前

18世紀末から、外国の船が日本の周りに現れるようになりました。幕府は、各地の藩に命じて外国の船を追い払うための台場を築かせました。

challenge

右の写真は、江戸時代に築かれた出雲市にある「河下台場跡」です。

この「台場」は、沿岸防衛のために築かれた石垣の台地です。台場の上には大砲が置かれていました。

下の地図は、台場の位置を示しています。地図を見て気がついたことを書きましょう。



河下台場跡（出雲市河下町）



コラム

あみやままだいばあと ～網屋浜台場跡～

十六島湾をはさんで、河下台場跡の対岸にある網屋浜台場は、松江藩が1799年に造ったものだといわれています。

黒船が来る50年以上も前に造られた、とても古い台場です。

